

第1学年 体育科 「もっと もっと 虫になりきるよ ～表現リズム遊び（表現遊び）～」

学習指導者 安岐 美佐子 支援員 内田 珠世

<p>主張点</p>	<p>子供たちがなりきる虫の特徴や動きを徐々に付け足しながら踊れるように、スモールステップの単元を構成しました。楽しく踊ることができた成功体験を積み重ねていくことで、さらに工夫して踊りたいという意欲を高め、なりきって踊ることができるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>前時には「□□な虫が○○する」を楽しく踊るための動きを工夫しました。友達といい動きを見付け合う経験を積んできている子供たちは、次も友達と踊りを見せ合って、もっと楽しく踊りたいという意識をもって本時を向かえました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を設定する。</p>	<p>学級で構築してきた、<u>虫の動き方大図鑑</u>（友達と一緒に見つけた、なりきって踊れた動きを写真やキーワードで視覚的に示した物）を提示することで、子供たちは、今までにできたことを捉えていきました。そして、子供たちの、「虫になりきってもっと楽しく踊りたい」という意識を基に、課題を設定しました。</p>
<p>〈課題解決中〉 2 題材についてイメージを膨らませ、踊る。  3 グループで友達と踊りを見せ合い、考えたことを伝え合う。</p>	<p style="text-align: center;">学習課題：「□□な虫が○○している」をもっと楽しく踊ろう</p> <p>もっと楽しく踊るには、友達と見せ合ったらよかったよ。</p> <p>なりきって踊るために思考の手がかりである「高さ」や「速さ」などを全体で振り返った後、まずは自分で踊りました。その後、自分の虫になりきっている踊りを班の友達と見せ合う虫眼鏡タイムを行いました。見た人は、虫の特徴を捉えられていたよい動きを見付けて伝えていきました。子供たちは、友達の動きを見たり実際に真似して動いたりしながら自分の動きと比べ、共通する動きのよさや、自分と違う新しいよい動きに気付いていきました。また、タブレットで動画を撮影しておき、子供たちが必要に応じて踊った後に自分の動きを見て、比較できるようにしました。</p> <p>いいところはあったかな。</p> <p>『元気なチョウがお散歩する』で、くるくる回って飛ぶところがチョウみたい。腕を大きく動かすだけじゃなくて、足を大きく広げているのもいいね。</p>
<p>〈課題解決後〉 4 学習を振り返り、次の課題を見いだす。</p>	<p>『□□な虫が○○する』でなりきって踊れた動きを、班の中のペアの友達に話したり、踊って見せたりしながら振り返りました。その後、できた理由を問いかけ、表出された協働のよさを価値付けることで学び方のよさを実感させました。最後に、次時にしたいことを問いかけ、次時への見通しをもたせました。</p> <p>『強いクワガタが散歩する』で、○○さんが、羽を広げて飛んでいる動きも真似したら、楽しく踊れたよ。次の時間は、僕の踊りをみんなに見て欲しいな。</p>
<p>考察</p>	<p>子供が自分の踊りを工夫する際には、自分の動きを比較しやすくしたり、変容に気付かせやすくしたりする支援をさらに検討していく必要がある。</p>

## ⑤ 合科的関連的な指導へ

### 体育科「もっともっと虫にないきろう」



①モデルを示し、踊りが上達するポイントを顕在化



②友達と見せ合いながらよさを共有



③タブレットを使って踊りを振り返る



④さらに向上した踊りを見守る幼稚園教諭



⑤振り返りのシェアリング

幼児期に虫とふれあったときの体験や園でごっこ遊びをした体験をベースに、1年体育科(リズム遊び)の学習を行いました。

生活科や日常での虫の飼育観察から、好きな虫の特徴的な動きを表出させるとおのずと動作化する子供の姿が見られます。それを見せ合うことで、どんどん上手に踊りたいという気持ちが膨らみます。

そして、踊りが上手になる要素「大きさ」「速さ」「高さ」「向き」「動き方」に着目した教科学習へ導きました。

「元気なダンゴムシが餌を探すところ」や「強いカマキリが戦うところ」などを楽しく踊り、友達と見せ合ったり、タブレットをつかったりして、どんどん虫になりにきっていきました。

参観にきた幼稚園の元担任の教諭は、「幼稚園のときに虫と一緒に生活したり、日常の遊びの中でいろいろなものになりにきってたっぷりと遊んだりした経験が本時の学習につながっていると思う。また、友達の見解に喜んだり、よさを取り入れたりする場面も多く見られ、成長した姿がとてもうれしかった。」と感想を述べていました。